

苦小牧市医師会
医師
芳村 裕

上手な病院のかかり方

体調を崩し、急いで病院へ駆けつけたものの、すぐには診てもらえず、待合室で長い時間つらい思いをされた方もけっこう多いのではないかと想像されます。

ふだん、初診でみえられる患者さんの多くは、二―三日前から具合が悪く、家で様子をみてたり、市販の薬を買って飲んでしたが、いついかに良くならず、

なるべく食事をとらずに受診を

我慢できなくなつてあわてて来院したというケースがけっこう多いものです。中には、朝から具合が悪いのにもかかわらず、時間外になつてから来る人もおられます。

せっかく医者に見てもらつても専門外だからと言われ、よその病院へ行かざるを得なくなつたり、夜間などには診断がつかないから、明日また再受診をす

るように言われたりします。

患者さんにしてみれば、早く苦痛をとつてほしいものなのですが、医者から言わせると時間外では検査もできず、診断もままならず、対症療法（症状に対してのみ治療すること）しかできず、原因がわからないまま、明日まで様子をみなければならぬことになり、非常に危険なことともいえるのです。

また、往診依頼を受けた場合はよほど動けない患者さんとか、高齢な方を除いては、基本的には病院へ来てもらうよう指導しております。かなり具合が悪いならば、急いで検査治療が必要ですし、病院でなければ処置できないことも多く、場合によっては救急車で専門病院へ搬送しなければならないことになったり、結果的には入院の必要

性が生じてくるからです。

体の具合がおかしいなど感じたときは、なるべく食事を取らないで早めに受診することをおすすめします。これは多くの検査が空腹時でなければできないことが多く、正確な診断への近道でもあるからです。また、他科受診が必要になることも多いので時間に余裕を持つことも大事なことです。これらのことに留意して上手な病院のかかり方をいたしましょう。

